

## 令和元年度 第1回 倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

日時 令和元年10月3日(木)13時30分～15時00分

場所 倉吉市役所大会議室(本庁舎3階)

(議事録)

- 事務局 はい、失礼いたします。定刻より若干早いですけれども、本日ご予約の皆さん全ておそろいですので、ただいまより今年度、令和元年度の第1回倉吉定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会させていただきます。さて、本日は、強風の中、公私ご多忙の中当懇談会にご出席いただきましてありがとうございます。本日は委員さん18名に対しまして、12名、お越しいただいているところでございまして、懇談会の設置要綱第6条第2項の規定によりまして、会議の開催要件を満たしていることをご報告させていただきます。同要綱の第6条第4項の規定によりまして、原則公開となっておりますので、その旨もご了承いただければと思います。では、日程に従いまして日程の2番、会長挨拶ということで、会長よりご挨拶をお願いします。
- 会長 こんにちは。懇談会にご出席いただきましてありがとうございます。令和元年度の初めてということで、この懇談会、年に1回ずつという、こんな日が確か続いているんですけども、ちょっと皆さんというよりも自分自身の復習で、どういう懇談会かな、ということをやちょっと思ったんですけども、平成20年に総務省が定住自立圏構想推進要綱というのを作りまして、それに基づいて日本中のいろんな圏域が共生ビジョンを作ろうと、そのときに倉吉の場合は倉吉と中部の4町がそろってビジョンを作ることによってスタートしました。一番はじめの第1次計画っていうのが、平成22年から26年まで、これが第1次計画であって、今動いているのが27年から今年度までということで、そのコンセプトはこの地域をよりよいものにして、より多くの方がここに定住する、住みやすい、こういう地域にしようということで、我々は一つは自立と絆、それから活力と癒やし、そんな圏域を作ろうということで、そして産業、あるいは教育・福祉・医療・環境、いろんな分野の取り組みを考えよう。あるいはネットワークということで、交通インフラを考えよう。ITを考えよう。あるいは圏域のマネジメントを考えようということですが、そのときの一つの特徴は、倉吉と4町、あるいは、場合によっては、倉吉と一つの町の取り組みでもOKと。こういうようなことでやってきて、この懇談会の役目は一番はじめの時は、こういうビジョンをどう作るかで、動き出したらこの進捗管理をやりながら微調整をしてきたということです。ところが、今年度は最終年度なので、第2次の検証をしていかないといけないと同時に、来年度から第3次ビジョンというのを作る必要があるということで、今年度は年に1回ということではなくて、後ほど事務局からご説明があると思いますけれども、2回、3回とやって、来年度以降の第3次ビジョンというのを作る、それについてもご意見を伺いたいという。こういうことが大きなポイントになってまいります。一応、今日も3時には終わりたいと思いますけれども、その中で思い切り忌憚のないご意見をお伺いして、進捗管理と同時に来年度に向けてのご意見も伺いたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。
- 事務局 会長様ありがとうございました。それではここで、資料の方の確認をさせていただければと思いますのでよろしくをお願いします。
- 事務局 お手元の資料の確認をさせていただきます。本日使用します資料は、先週末に郵送させてい

ただいております。本日、机の上に追加で置かせていただいているんですけども、先日お送りさせていただいたものから変更があったもの、修正したものを置かせていただいております。修正したところについてご説明させていただきます。1点目が1枚目のビジョン懇談会の日程表です。開始時間が誤っております、1時30分からのものに修正をしております。続いて配席図です。加藤委員と中森委員が急遽欠席になっております。名前が載っておりますが本日欠席となります。続いて参加者名簿です。委員さんと事務局、オブザーバーの出席者を書いております。中でも鳥取中部観光推進機構、これまで牧野委員にお願いしていたところなんですけれども、委員の変更がございまして、今推薦の依頼を出しているところがございます。後任はまだ決まっておられませんので、空欄という形になっております。続いて右肩に資料1と書いてあるもの。事前にお送りした資料では救急医療体制の充実の数字が空白になっていたのですが、数字が分かりましたので入れたものを机の上に置かせていただいております。続いて資料の2、こちらも救急医療のところ、数字が入りましたので、数字を載せております。続いて資料3なんです、ページをめくっていただいて、5ページです。上から3段目、地産地消拡大事業。こちら数字に変更がございましたので、新たな数字を入れたものをお配りしております。今ご説明したものに付随しまして、このクリップで留めた資料4の数字が変わって参りますので、差し替え分をご準備しております。説明は以上になります。

○事務局 この懇談会につきましては、懇談会設置要綱の第6条第1項によりまして、懇談会の会費は会長が招集し、その議長となるようになっておりますので、以降の進行を会長様にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○会長 はい、お手元の『今日の報告や協議事項』と書いた用紙をご覧ください。報告事項の1、第2次鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンの取り組み状況について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局 はい、事務局から取り組み状況についてご説明申し上げます。説明に使う資料ですが、新たにお配りをしました、右肩に資料1と書いてある資料、横長のものになります。こちらの資料を中心に説明をさせていただきたいと思っております。冒頭、会長からの挨拶もございましたとおり、本日のメインといいますか、協議事項で次のビジョンの策定というものもありますので、大変恐縮ですが取り組み状況に関しましては、少しポイントを絞りながら説明をさせていただきたいと考えております。はじめに1ページ、上から説明をさせていただきます。救急医療体制の充実でございますが、初期救急医療施設の人数につきましては、概ね横ばいで推移をしております。こちらの指標は、去年もご意見を頂戴したところですが、必ずしも数字を達成すればいいというような成果指標ではないです。けれども、なかなかいい成果指標というものがございませんので、医療体制が充実しているという、その絶対量を見る観点でこの数字を出しております。次の2段目、初期救急医療施設の利用者数です。こちら0人になっています。この数字があがってくる時は、新型インフルエンザとかそういったパンデミックと言われるような状況となったときにこの数字が出てくるものでして、昨年はそういったことがなかったということで0人になっております。下から2段目になります。病児病後児保育の利用者数です。こちらは病児保育を厚生病院、病後児保育を野島病院でやっていただいております。概ね横ばい、やや減少傾向です。こちらが増えればいいというものではなくて、ちゃんと整備されているということが大事なのかなと思っております。一番下の休日保育の利用者数です。こちらはババール園で行っております。こちら繰り返しになりますが、休日保育を増やしていくものでもないんですが、預ける必要のある方がしっかり預けられる環境を整えていくということが大事なんだろうと思

います。ページめくっていただきまして、2ページになります。一番上のセンターの利用率です。中部子ども支援センターの利用率ですけれども、今年度は64.8%で目標達成しているという数字になります。しかし、右の備考欄にあるとおり、105人/162人ということで、そもそも数字が少ないので、数字の上下がしやすいというところがございますのでご留意いただけたらと思います。上から4行目、倉吉市営陸上競技場の利用者数です。平成30年度は19,000人余が利用されております。平成29年度は震災復旧工事のため使えない期間があったんですけれども、平成30年度はフルに使えたということで数字が伸びております。下から4行目、企業誘致の件数です。平成30年度1件あります。Bfull（ビーフル）という会社で、3Dプリンタを使ってフィギュアを作るメーカーでございます。清谷に誘致しております。続いて一番下、消費生活相談窓口の利用者数です。こちらはかなり多い件数が入っております。広域連合に委託をして実施をしているものになります。続いて3ページになります。上から2行目、バスの利用者数です。平成29年度に比較しますと若干利用者数は増えております。こちらが増えたからすぐ喜ぶかというとなかなかそうではなくて、全体としては厳しい状況は続いています。通学する高校生がどこにお住まいかというところが大きく影響してくると聞いております。下の段、圏域内にある直売所の販売額です。少し数字が落ちてますのは、東伯の店舗が1店舗閉鎖になった関係で、数字が落ちております。その下の段、食のみやこフェスティバルです。平成30年度は、27,500人の実績がありました。その下の段、圏域外から圏域内に移住した人数ですけれども、大変高い数字で推移をしております。資料1の説明は以上になります。

○事務局 続いて資料2と資料3ですけれども、こちらは金額的なところになります。資料2が決算額の内訳になります。こちらはお読みいただけたらと思います。資料3です。こちらが予算額になってまいります。空白になっているところなんですけれども、所管課を通じて広域連合から数字を取り寄せているところなんですけど、今回数字が間に合いませんで、空白になっております。資料の4は先ほど説明をさせていただきました細かい事業の説明が載っております。こちらもお読み取りいただけたらと思います。取り組み状況の説明は以上になります。

○会長 それでは何かお気づきの点やご質問があったり、ご指摘があればお願いします。

○委員 食のみやこですね、食のみやこ。かなり回数も経ていきますけど、令和6年に県立美術館が建つと。大御堂廃寺で何回かされていますけど、ラグビー場で美術館が建設予定なんです。令和4年くらいには場所が使えなくなるんじゃないかと思うんですが、どこか場所を変えてでも食のみやこは開催されるのでしょうか。

○事務局 食のみやこフェスティバルに関しましては、来年度がちょうどが第10回目を迎えるという風にお聞きしております。開催地につきましては、市営ラグビー場ではなく大御堂廃寺跡ということで、大御堂廃寺跡地利用がどのようなものになるかというところが、あそこでの開催での要素になるのかなという風に思います。例えばテントが張れないとかになれば別の場所を模索していくことになろうかと思いますが、実行委員会さんの方とよく考えて開催するということになろうかなと思います。何はともあれ10年近く続いておりますので、何とか継続するような形を考えられたらなと思っております。

○会長 他にはいかがでしょうか。はい、お願いします。

○委員 資料1の3ページ。婚活イベント、セミナー等の参加者同士の成婚組数があるんですけども、婚活というのはJAのほうもかなり力を入れておまして、年に2回、最近でも行っております。こう

いうものも含めたところの、この実際ここに出ている数字がですね、どういう風に拾われたのかな、市であったり連合であったり、そういうところの行政がするところなのか、いろいろJAであったり集落であったり地域であったりといたところもあると思うんですけども、その辺ちょっとお聞かせ願えたらと思います。

○会長 お願いします。

○事務局 婚活イベントセミナーの成婚組数ですけども、こちらの数字は婚活イベントでカップルになった方が、成婚した際にご報告をしてくださった方、又は、何らかの機会で行ったことができた数字になります。把握のしかたは課題にもなっております、数字がとりにくいところも現場サイドからは聞いております。ちょっと工夫が必要な指標なのかなと思います。もう一つ考えられる指標としては、イベントをやってカップルになった数という、そういったこともあります。この事業自体は連合に委託をして、さらに民間事業者に委託をして実施しているんですけども、参加者の声を聞きますと、『カップリングの行為があることがすごくストレス』といった意見もあつたりして、工夫しながらやっています。

○委員 さっきいったようにいろんな取り組みはしていると思うので、そういう企画の回数であったりとか、参加者人数、カップルということも考えられるわけですけども、参加者を募るといのが本当に大変なことで、そういうのを入れた方が分かりやすいかなと思いました。以上です。

○会長 よろしいですか。他にはいかがですか。はい、お願いします。

○委員 すみません、同じく3ページの移住のところ、目標が200・200・200で来まして、令和も200になっているんですけども、実績がその倍以上、これはすごくいいことなんですが、そもそも200の内訳ってどういう内訳だったのかなと。ちょっと目標が小さすぎたのかなと。そしてこの推移で行くと、400、500、また令和の方に、これは後から協議だと思えますけども、またここで200という数字が出てますので、その辺ちょっと説明をお願いします。

○会長 お願いします。

○事務局 お答えをいたします。200の正確な内訳というのは分からないんですけども、平成22年に第1次ビジョンを策定した際の現状値が32人でした。その時に目標値を設定したのがそのまま生きているのかなと推察いたします。節目は東北の震災というのが一つ大きな節目としてあって、それを境に移住者がぐっと増えたというところがあるのかなと思います。共生ビジョンで目標値をどこに持ってくるかはまた、検討させていただけたらなと思っております。

○会長 他はいかがでしょう。ではまた、次回のことを考えながらということにしたいと思います。ちょっと、じゃ次の報告事項の2、定住自立圏構想合同勉強会について説明をお願いします。

○事務局 はい、合同勉強会についてご説明いたします。説明に使う資料は資料5と書いてあるものになります。今年の7月11日に定住自立圏の合同勉強会を開催いたしました。開催するに至った経緯なんですけども、今年の5月23日に総務省が、この鳥取中部の取り組みをヒアリングさせて欲しいということでお見えになりました。その際に、鳥取中部の定住自立圏がちょうど第3次のビジョンを作る年にも当たるので勉強会をやれないか、については、講師に来てもらえないだろうか打診をしたところ、ご快諾をいただき、実施することができたというものになります。参加者につきましては、共生ビジョン懇談会の委員様は7名、行政関係者が17名、オブザーバーとして広域連合と鳥取県が6名、また、このたび委員さんの枠をさらに広げまして、次世代を担う若者を一人、連れてきてくだ

さいというご案内をさせていただきましたところ、7名の方を連れてきていただきまして、合計37名で勉強会を開催いたしました。はじめに講演会といたしまして、総務省の職員に説明をしていただきました。ポイントとしては、①結びつきを強めていって欲しいということ、また、②医療・福祉・教育といった生活基盤の強化を図って欲しい、ということがご講演の中心だったのかなと思っております。定住自立圏の制度ができて10年経ちますので、見直されるのじゃないかという不安もあったのですが、総務省の職員がおっしゃるには、少なくともチーム内、職場内では変えるというような議論はしていないというようなことがございました。ページめくっていただきまして2ページになります。講演が終わった後にワークショップを行いました。ワールドカフェというワークショップを行っております。テーマは、『10年後の鳥取県中部地区が素晴らしい圏域になっているとしたら、どのようなことが行われているでしょうか』というテーマで、グループに分かれて自由に意見を出し合うというワークショップをやっております。途中で席替えをしながら、よりよい意見を共有していくというワークショップをやっております。ワークショップの最後に、いろんな意見が出た中で、それを実現するために自分ができるといえるものを一言書いていただき、それを最終とりまとめをしてワークショップのまとめといたしました。3ページに勉強会の様子の写真を載せております。続いて4ページになります。ワークショップのまとめを載せております。まとめ方の方法は、たくさん意見を共生ビジョンの分野別に分類をいたしております。分類した上で、最後書いていただきました『自分がしたいこと』を組み合わせながら、それぞれの意見の強さ、深さというところを推し量っていくやり方でまとめをしております。そういう観点でいきますと、福祉・教育・産業振興・地域公共交通・交流移住というようなところで意見が多く出ております。他方、産業振興ですとか地域公共交通については、たくさん意見は出るんですけども、したいこと・できることの意見が出てきておらず、アイデアは出るけれども、なかなか自分自身に関係していくことは難しい領域なのかなということを読み取ることができます。6ページ以降は出された意見を箇条書きにまとめておりますので、ご一読いただけたらと思います。出された意見につきましては、第3次ビジョンの説明の時にもう少し触れさせていただこうと考えております。説明は以上になります。

○会長 ご出席された方もこの中に何人かおられますけども、何か補足があれば、よろしいですか。また第3次の中にも入ってくると思いますので、そこでまた説明があろうと思います。それでは本日のメインになると思いますが、協議事項で先ほど事務局からもありましたし、私も冒頭に言いましたが、来年度から第3次の鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンが始まるので、その策定をこれから始めるということです。じゃ、事務局の方からご説明をお願いします。

○事務局 第3次共生ビジョンの素案、たたき台の説明をさせていただきます。お手元に資料6の1というものと、6の2という2つの資料があるかと思います。この2つの使い方ですけども、6の1というものがたたき台で、第2次共生ビジョンからの修正箇所を全部溶け込ませたものになります。6の2の方が第2次ビジョンから変えたところについて、赤字で分かるようにしております。6の2の方は字が小さくなりますので、見やすい方を見ていただけたらと思います。ページは合わせております。まずページをめくっていただきまして、目次のところから第1章の『はじめに』から14ページの人材までです。こちらについては直近の数字を修正していく形で現状の文章を生かしながら時点修正していくことを考えております。続いて15ページをご覧ください。圏域の課題と可能性というところになります。こちらも文章を時点修正の形でいけるのかなと思っております。かなり広めの

文章が書いてありますので、今の時代といいますか、5年前と比較して、今でも同じような課題を抱えているなど、読んだ感じ印象を持っていますが、ご意見を頂戴できたらと考えております。続いて21ページです。圏域の将来像です。こちらは、第1次ビジョンからずっと同じ文章ではあるんですが、こちらも普遍的と言いますか、課題を捉えた将来像となっていますので、こちらも同じ文章でいけるのではないかと考えております。ご意見がありましたら頂戴できたらと考えております。続いて個別具体のところになってまいります。27ページからが具体の事業になってまいります。ここからは主だったところを説明させていただこうと思います。はじめに32ページ、福祉のところ。現状と課題の文章を少し修正をしております。こちらは先ほどご説明したワークショップの福祉のところ、家族の生活を支える家事支援のサービスがあった方がいいんじゃないかというような意見がございまして、文章の中に書き込みをさせていただいております。続いて36ページになります。こちらの現状と課題のところ。下の現状の課題のまた～以降ですけれども、こちらワークショップの意見で、仕事と家庭の両立というようなところであったり、家庭を支える、子育てを支えるサービスが必要じゃないかという意見がございましたので、書き加えております。続いて39ページです。ワークショップの中では、教育の領域で、高校の専門的な教育であるとか、大学のコミュニティ化、そういうところの意見が出ておりました。それをこの文書にどうやって落とし込むか悩んだんですけども、次のページ40、41ページを見ていただきますと、この教育にかかる具体的な事業が、中部子ども支援センターの運営事業と、43ページにある体育施設の管理というようなところの事業になっていまして、この具体的な事業とあまり離れすぎると現状と課題を書き込むのもなかなか書きにくいところもあり、今後の検討課題だと思っております。何か書き込める工夫ができれば、ご助言いただけたらと思っております。続いて46ページになります。産業振興のところになります。ワークショップでは中部の魅力が多様な方法で発信してはどうかというような意見がありました。外国語での発信も大事だろうということがございました。そういったことがありまして、現状と課題のところ、外国人旅行者の、というような文章を付け加えております。また現状と課題の上から3行目ですが、『また農林業などの田舎体験を修学旅行に希望する学校も増えています』という文章も付け加えております。これはページめくっていただいて、50ページ、二つの事業を新規で事業化しようという計画をしております。一点目が農山漁村での体験を通じた修学旅行誘致事業になります。関西圏域中心に、農家に泊まって農業体験をするという修学旅行が大変多くなってきております。倉吉の関金のエリアでスタートしたんですけども、一度に200人、300人という子どもたちが泊まりに来るとなると、農家の数が70件ほど必要になるということで、受入れエリアが広がってきております。関金だけでなく北栄町の方まで広がってきているというところがございます。受け入れを強化していくというところで事業化されております。もう一つは、下の段の鳥取中部ウォーキングリゾート推進事業です。こちら、つい先日、湯梨浜でウォーキングのイベントがございました。今日の日本海新聞にも記事が載っていましたが、ガストロノミーウォーキングというイベントが実施されています。ウォーキングリゾートが鳥取中部エリアで広がりを見せておりますので、この取り組みをしっかりと推進していこうという事業が新規で載っております。続いて51ページになります。現状と課題で文章を大きく削っております。また取り組みの方針についても雇用創出奨励制度という事業を削っております。これは、圏域内に企業誘致した企業が地元の方を新規雇用した際に助成金を出すという、雇用確保の制度を中部圏域で取り組んでいたのですが、現状は雇用したくても人がいないという

風に時代が変わってきてまして、この事業自体の役割が大きく変わってしまったということで、文章を削っているということになります。53 ページの下の段が事業になりますが、これをなくすということになります。続いて 57 ページ。結びつきやネットワークの強化のところ。文書が大きく変わってきます。変わる理由ですが、ページをめくっていただいて 58 ページご覧ください。取り組み方針の中に平成 30 年 3 月に策定した『鳥取県中部地域公共交通網形成計画に基づき』という文章があります。これまで 1 市 4 町で公共交通の連携計画をやっていたんですけども、平成 30 年に網形成計画というものに変わって、国と県の補助金を受けて計画を策定しております。その計画に基づいて中部エリアの公共交通を考えていくという枠組みになっています。その計画の文章に合う形で整理し直しているということで大きく変更になっております。網形成計画での成果というものがこちらのビジョンの評価と連動しておりますので、共生ビジョンから外れるというものではありません。続いて 62 ページになります。地産地消の推進です。事業をいくつか落とそうということで、1 市 4 町の担当者ベースで話をしております。これまで地産地消を圏域全体で推進していくということで協議会を設けてやっていく計画を立てていたところですが、それぞれの市町で地産地消を行っているということがありまして、今回落とすことになったと聞いています。逆に 1 市 4 町で協力できている食のみやこについてはしっかりやっていこうということで話が整理されております。ここについてもご意見を頂戴できたらと考えております。続いて 76 ページです。今後の検討課題をまとめております。第 2 次共生ビジョンの時に、今後検討するものとして挙げていた課題について、このたび共生ビジョンを見直すに当たって、それぞれの項目について、1 市 4 町の担当者が集まって今後の検討課題についてどうしていくのかというのを話し合っております。赤の点線で囲んだものが協議結果です。例えば 76 ページ、子育て相談体制の充実については、1 市 4 町で話し合った結果、事業化にはまだ至らないけども継続協議していこうということになっております。77 ページ右側のページの青い点線のところ。青い点線の中は先日のワークショップで出た意見をまとめたものを載せております。こちらを参考にしながら、もっとここは協議していくべきじゃないかとか、本文に入れ込むべきじゃないかとかのご意見を頂戴できたらありがたいと考えております。同じような立て付けで記載しておりますので、読み取りいただけたらと思います。説明は以上になります。

- 会長 どういう風に進めましょうかね。ちょっとはじめから順番に行くとしても時間があれなんで、何かまずはじめのくくりの 1 章からどこまではほぼこれと同じとおっしゃいましたか。具体論になるところの 26 ページまでは基本的には同じということですよ。まだじっくり見られていないとは思いますが、何か気になったところがあれば、今その間にちょっと話をさせていただければいいです。1 ページから 26 ページの間でお気づきの点があればおっしゃっていただければと思います。
- 委員 1 ページ、ちょっと気になったと言いますか。定住自立圏の構成市町で、中部で 1 市 4 町が圏域なんですけども、この同じ並びで中海圏域、米子市から西伯郡、日野郡、安来市、松江市で人口 40 万人強の規模があると。中部 10 万の規模。東部の場合ですね、例えば昔からの鳥取但馬会ってのがあって、今の鳥取銀行の理事長も但馬の方とか、日の丸証券の社長も但馬だとか、結構鳥取の財界・経済に但馬が多いと。ここは鳥取は但馬地域と人口規模で 30 万人位なんですけどもね、西に島根県と、松江市とがあればちょっと、今の山陰近畿路で 1 時間、香住まで 1 時間くらいでいっちゃうと。だんだん、以前から、今もだけでも、結びが強いもので、ここは但馬が一言入ったほうが、倉吉のポイントを語るなら、西部に 40 万人規模、東部に 30 万人規模の地域があって、中部はどうなるのか

なと思いました。以上です。

○会長 意見ですよ。

○委員 はい。

○会長 他に。おねがいします。

○委員 教育のところなんですけども、これまでの経緯が分からないので質問としてさせてもらおうと思いますけども、10ページの教育の現状のところと、対応してこれからのことが書いてあると思うんですけども、これまでの議論の中で市と町があつてのこの会議ですので、高等学校は一部私立と県立ということですね、ちょっと管轄が違うかなということで話題になっていないのかも知れないんですけど、中部の中学生が高校に進んでいくときに、毎年欠員というか、穴が開きますね。各高等学校に。これはもう確実に開くようになっていまして、平均にしますと東部西部から入ってくる生徒も多少あるわけなんですけども、平均して70から80人くらいは出ますし、去年、今年の春までは100数十名出ましたので、当然穴が開くんですけども。そういうことについてこの会議の議題とか話題ではないかもしれませんが、こういうことについてこれまで話題になったことがあるかとかですね、問題意識として取り上げられたかということをお聞きしたいと思います。

○会長 お願いします。

○事務局 教育の分野なんですけども、現在事業化されていますのが資料の40ページから42ページの『子ども支援センターの取り組み』というものになっています。これは、不登校であったり、いじめだとか、なかなか学校に通えなくなった子どもたちが通うところで、その維持管理経費を事業にあげているところになります。委員のご指摘のとおり、計画策定から10年経って時代が変わって来ている中で、高校の校区自由化というところを受けて、鳥取中部の中学生の200名近くが東部と西部の高校に進学をするという現状の中、定員割れを起こしているというところがあると思います。先ほど少し触れましたが、ワークショップの中でも高等学校の専門化というような意見が、この課題背景を踏まえたご意見であると認識しております。また大学のコミュニティ化というところも、教育をより地域に身近に持って行くことで、地域への定住であったり、底上げとかそういったところを意識したというものがあると思います。先ほどなかなか文章に入れ込むのが難しくてという説明をさせていただいたんですけども、これは入れ込まないといけないと事務局としては思っています、そのためには事業にどう結びつけていくのかということが重要なかなという風に思っています。文章に書いたはいいけれど、実際に出てくる事業が支援センターだけというのもなかなか難しいですので、教育委員会ともう一度、素案を出すまでに、1市4町の担当者でもう一回もんでくれと、いうことを投げかけていきたいと考えております。

○会長 はい。ちょっと今の25ページを見ていただけますか。このビジョン構想の概念図みたいなのがあるんですけど、こういうコンセプトでこういう分野でこうしたいということがあって、25ページ。26ページに分野があって、で具体的な取り組みが26ページの右側にいくつか出てきて、こういう取り組みの中で何ができるかということをおたにもしあれば入ってきたら面白いっていうようなこと。ただこの取り組み内全体で先ほど事務局がおっしゃった、こんな現状と課題があるんだよということがあって、新たなこういう取り組みっていうのが出てくればいいなということなので、実はそういうご意見をどんどん伺わせていただければありがたいというのがあれです。けどもとりあえずたたき台がないとどうしようもないということで、事務局からたたき台を出していただいています。

すという、そういうことだと思えます。25 ページの全体像から 26 ページのそれを取り組みに落とし  
たこと、そして具体的なものが 27 ページ以降にあるという仕組みになっていると思えます。それで  
は、そういう中身の議論も結構ですので、ご意見をいただければありがたいと思えます。

○委員 お願いします、前もってちょっと資料を読ませていただいて感じたことがありまして、ちょっと  
戻ってしまいますけど 11 ページ。産業の構造の 6 行目になりますけども、農業のということで 17  
年、22 年と平成時代のことが載っております。人口が減少して、それで耕作放棄地であったりそれ  
から農業生産額、そういうことも書いてあって一層厳しい状況ということで、ちょっと自分悲しいな  
と思ひまして、そうではない今の状況というのは本当に今回ですね、書いていただきたいなという  
ところです。農業生産も右肩上がりに、6 年連続あがっておりますし、それから若い生産者が増えてき  
ている。そして内川課長さんは農業にとっても明るい方ですので、この素晴らしい秋空のような明るい  
現状をですね、書いていただきたいなというお願いでございます。

○事務局 本日は新聞にも載りました、倉吉のスイカが 10 億円を突破したというようなこともございま  
す。スイカだけでなく、倉吉市、鳥取県中部にはいろんな果物、稲作もございます。酪農、畜産もご  
ざいます。あらゆるものが農業関係はあるのかなという風に思ひます。暗くなるようなことばかりで  
少し課題だけではなく、ワークショップの夢のようなものが語れるようにならないかなという風に  
考えております。以上であります。

○会長 他にいかがでしょうか。はい、お願いします。

○委員 明るい話をということで、一つ明るい話を。先ほど話がありましたけど、令和 6 年度に県立美術  
館が倉吉市に開館いたします。ちょうどこの次の第 3 次の共生ビジョンの最終年度になります。こ  
れから 5 年間、これはあくまでも鳥取県の施設ですが、地元住民がどうこの美術館に開館に向けて関  
わっていくのか。また自治体としてもどう関わっていくのか。それに向けての取り組みをですね、ぜ  
ひこの共生ビジョンの中に入れていただきたいと思ひます。以上です。

○会長 はい、お願いします。

○事務局 美術館のご意見をいただきました。美術館はこの鳥取中部にとって大きな魅力の一つになっ  
てくるんだろうと思ひます。ビジョン見直しに当たって、美術館については 1 市 4 町でまだ十分な議  
論が深まっていませんので、素案を出すまでに、もう一度担当課に投げかけをして、1 市 4 町でもん  
でもらうようにしたいと思ひますので、よろしくお願いします。

○会長 他にいかがでしょうか。はい、お願いします。

○委員 福祉のところ、9 ページになると思ひますが、触れてあるところに今の現状のところ、ここ  
は本当に介護状態、高齢化率ですとか介護認定者というところの説明がされているんですけど、本当  
に時代の変化に伴って、核家族化が本当に増えてきていて、家族の形態の変化で身寄りのない方のケ  
ースに関わることが増えてきているという現状も押さえていただきたいと思ひます。また介護保険  
のサービスというところも、充実はしてきているんですが、やはりそれだけでは高齢者の生活を支え  
ることができていない現状もあって、本当に地域の支えが必要になってきているということ、また  
今後の取り組みとして 1 市 4 町で考えていただきたいと思ひます。以上です。

○会長 受け止めさせていただくということでよろしいですね。

○委員 先ほどちょっとお話しさせていただきましたが、資料 66 ページを開いていただきたいんですけ  
ど、私の活動の範囲がコミュニティの創出だとか、移住定住者の促進サポートだとか空き家空き店舗

の利活用と、こういうことをベースにして活動しています。66 ページ、先ほど言いましたように成果の状況・目標で、元年から6年まで200人と変わらないというのはちょっと、これは修正した方がいいんじゃないかと思います。倉吉市だけでも1,000人プロジェクトですね、5年間で1,000人移住者増やすんだと。ここ2年くらいはクリアしています、200人ですね。倉吉だけでも200人くらい来ているので、全体の市や町で200人はあまりにも少なすぎる目標です。これはもう倍でもそれ以上でも、400でも500でも目標設定は高めにした方がいいのかなという風に思います。これは意見です。もう一点、空き家情報のことですが、ここに概算事業費がゼロ、ゼロ、ゼロとなっていますけど、特に最近ですね、例えば環境大学さんや鳥取大学さんなんか地域学部のほうで空き家の利活用のほうを研究なさっていて、中にはそれをテーマに論文を書いたりしている学生さんもいらっしゃいます。最近ですと去年くらいに中央高校の1、2年生に空き家チームというのもありまして、実は僕も少し関わってはいるんですけど、それで地域の空き家をどうしたらいいかというのは高校生も本当に考えてまして、この秋は何か提言するそうです。北栄町を例として提言します。彼らと一緒に行きまして智頭町だとか鹿野町だとか、もちろん地元の倉吉白壁土蔵群周辺の空き店舗空き家の利活用を説明してきましたけども、高校生も一生懸命やっていますので、ぜひここは連携をとるよう何か事業費を付けていただければ、来年も彼らもチームをやりたいと言っていますし、大学の方とも連携をとってもいいし、いろんなフィールドワークやワークショップをやったり、それを1市4町に一つの参考になったり、連携をとったりすることはできると思いますので、ぜひ何かの事業費をですね、事業がないのに事業費を付けるというのもおかしいですけど、ちょっとさみしいと思った次第です。これは意見です。以上です。

○会長 はい。お願いします。

○委員 先ほど福祉で、地域の支えというようなことをおっしゃったんですけど、私民生委員をしまして、倉吉で。この3月で倉吉市の福祉推進計画5カ年計画を作成しました。福祉課と社協と私たち委員で。で、福祉というのはご存じのように、児童・障がい者・高齢者ですけどね、国の社会福祉が大きく変わって、一昨年。地域を包括したいということになりまして、倉吉市では小学校区ですね、13の小学校区を地域を包括すると。地区公民館の中にですね、福祉の職員を入れると。常駐で。お金を出して。というようなことが倉吉市のHPに載っています。で、見つける、見守る、ケアするという体制をつくると。例えば引きこもり、児童虐待、全てです。子ども、老人、高齢者、をやろうというシステムも倉吉では作りました。で、地区の公民館は教育委員会の管轄なもので、そこと福祉とのちょっとさしてもらえないもので、もうそれは載ってますんでHPに。見られたらいいと思いますけど。第4期計画というのがありまして。今年から令和元年度から5カ年までの。そういう体制ができるようになりますので、地区によっては。私は住んでる河北地区なんかは行ってみたら孤独死とか結構あるんです、年間に。行ってみたら一人で死んでいる方とかに。あの、年間に数人おられて、で、こういうシステムはぜひ取り入れたいと言うことでね。例えば奥地の、比較的、あの、農村地帯はね、皆さん知ってるんで、いいよというところもありますけどね。こちらの河北から天神川が向こうとかね、上灘とか、河北地区はほとんど知らないですよ。後期高齢者の方がおられて、私、伊木に住んでますけどね、200人くらい後期高齢者がおられると。外国人がおられたりしてね。分からない。1年に数人弱っている方がおられて。それが分からないんですよ。それを見つかる体制を今作ったという、倉吉市が。ということです。で、あの、段階的に作っていると言うことを今お伝えしようと思っ

ていました。以上です。

○会長 今日ご欠席の委員からご意見なり簡単に紹介してください。

○事務局 お手元の資料で右肩に委員提出資料という資料をお配りさせていただいております。両面刷りのものになります。急遽ご欠席の連絡をいただきまして、このペーパーをいただいたものになります。内容は、思春期保健対策の推進のリプロダクティブヘルスについてということになります。資料で行きますと30ページ、思春期保健対策の推進になります。このリプロダクティブヘルスライツというものが何なのかというところを少し説明させていただきます。これは、性と生殖に関する健康・権利を言うそうです。女性が子どもを産むかどうか、またいつ産むのか、何人産むのかということ自分で決めることができる、自分で選択できる、そういった権利のことを言うそうです。ここの指標が、事業内容を図るためにふさわしいのかということをおっしゃっております。上から3段目の、「ただし、」のところですけど、年に1回の講演会が、人工妊娠中絶率が下がるとは思えないというようなご指摘であったり、それであればアンケート調査をやったらどうだろうかというようなこと、また学校に向いて講演会をやったらどうかというようなご意見をいただいております。二点目の中部子ども支援センター運営事業につきましては、今年の懇談会ででもいただいているご意見なんですけども、学校の復帰率というところなんです。学校復帰がゴールではなくて、フリースクールや様々な機関につないだ事例というものも評価するべきではないだろうかというご意見をいただいております。質問の2のところ、概算事業費の質問が出ております。答えを準備するのが間に合いませんでしたので、次回までにご準備したいと考えております。以上が委員からのご意見です。それに対して、ご回答と言いますか、現段階で事務局からお話しできることについて触れたいと思います。一点目の思春期保健対策、リプロダクティブヘルスライツについてです。講演会自体は年に1回なのですが、その講演会には、学校の先生や保護者の方にも来てもらっています。講演内容は、自分の体を自分で守ることができるんだということや、苦しいときはちゃんと相談できる大人がそばにいるというものです。保護者にも発信することで、保護者から子どもに対しての、家庭内での教育にも繋がっていくものと思っております。また学校に向くタイプの講演会ということでも、心の教育というものを行っていただきまして、保健センターの職員等が学校に向いて、命の教育というものを行ってしております。以上になります。

○会長 ちょっととりあえずご発言のない方に回してからまたやりたいと思いますので。なければパスで結構です。はい。

○委員 中部にNCNとTCCという二つの局があります。で、昨年からになるんですけども、昨年も紹介させていただいたかと思いますが、JAさんの組合長さんが毎月記者会見をされております。地域向けに。それをTCCと私どもの方で共同制作して、両方で同時に流すということをやっております。こういった分野をいろんなところに広げていけたらいいかなというふうに考えていて、TCCさんと連携しながらやっということで取り組みを行っております。先ほどありました食のみやこにつきましても、わずか30分くらいなんですけども、生中継を去年・今年とさせていただいております。それを見て会場にやってきていただける方もいらっしゃるということで、非常に励みになっておりますけども、こういった取り組みも進めていけたらと思っております。一応報告です。

○委員 委員としては結構長いんですけども、皆さんどこまで読み込んでおられるか知りませんが、膨大なデータを全部網羅してどうだって言うようなことはなかなかできにくいということで、それぞ

れ分野や部門で得意なところで多分ご意見なりいただいているんだろうなと思っております。私もどちらかというところと産業界という立場での参加と認識しております、ここに書いてありますのは観光とか企業誘致とかいう題目での捉え方でありまして、で、課題としてじゃあどうだっていうのはなかなか絞り込むというのはそれぞれの市町でも特徴があったりもしますので出しにくいかなと思いますが、先ほどから出ております、例えば今人が足りないとかですね、そういったことに対してどう対応していこうとか、あるいは労働者が少ないときに外国人研修者とかですね、そういうことの対応をどうやって行くのかと言うことを地域住民としてどう捉えていくのかなと言うようなことも必要かなという風に思いますが、具体的にじゃあどうだっていうところまではなかなか言及しづらいと思います。それと正確な数字がなくて申し訳ないんですけども、倉吉市が住みよさランキングで上位ということで評価されたと言うことは、非常に地元に住んでるものにとっても誇れることだし、いいことだなという風に発信していくべきだなと思いますが、翻って一方では労働生産性と言いますかね、市町村の労働生産性ですね、1,700 くらいの自治体の中で1,400 番くらいだったのかな。ということで非常に低いですよ、実はね。だからそれはただ幸福度に結びつくかどうかというのにはまた異論があると思うんですけども、そういったことも数字として捉えておく必要があるのかなという風に思います。あとですね、産業というか我々も今事業所、人口が減っているんで事業所もどうやって継続してもらおうかなと言うところに力を注いでいるんですけども、今うちの方がちょっと事務局の方になってます、中心市街地活性化協議会においても、計画の進捗度の指標として新規開業が何店できたかというように捉えているんですけども、創業もさることながら今事業をなさっているところが継続していくためにはどうしたらいいかと言うことで、私どもは地元のお店でお買い物しましょうよというようなことを提唱しているんですけども、そういったことが具体的にこういう計画にどこまで落とし込めるのかなと言うのがなかなか難しいのかなという風に思っております。なかなか話なんですけども。そんなところでございます。

○委員 特に用意したことはないですけど、今日の新聞にも運転手の人手不足の記事が出ておりました。今こういう風にいろいろと交通網の整備とか言う話も出ておりますけども、本当に今ドライバー不足に悩んでおまして、これは日の丸さんも私どもも同じだと思います。70 超えた人でももう退職していただくというようなことができにくい環境の部分もありまして、とにかく元気な人が70 を超えてもタクシーの運転手をしている人もありますし、なかなか今の現状を維持するのも大変な状況の中です。どうやって人手を確保するかというようなことで、いろいろと免許の取得に全額出ただとか、乗務員を紹介してくれたら紹介料とかいろいろアイデアは出してはおりますけど、なかなかそれでも人が集まらないというような状況がありまして、維持するにも本当に今大変な状況でないかなという風に思っております。いろいろと路線についてのアイデアは皆さんからいろいろお聞きしておりますけど、今の路線を維持するのも大変な状況だと言うことを分かっていたきたいと思います。以上です。

○委員 あの、初めての参加で特に何と言うことはないんですけど、この共生ビジョンに関係があるのかどうかはよく分かりませんが、ちょっと今思ったことを言わせていただくと、私もいい年になってきて、最近病院に行くことも多いんですけども、本当に病院に行くと、若い方もいらっしゃいますけど高齢者の方がとてもたくさん待合で待っておられる姿を見ました。今まで自分は元気だと思っていたのであまりそういう場を目にする機会がなかったんですけど、それを目にしながらくて

レビなんかで認知症予防も含みながらですけども、健康な体でいるための体操に取り組まれている公民館だったり病院だったり、そういう場面が映っていて『ああ、これいいな』と思いながら見るんですけども、この中部圏内においてはどうなのか、ちょっと実情が分からないのでなんともいえないところなんです、そういうようなことも何か一つ考えられたらいいのかと、私もそこに仲間に入れていただきたいという気持ちも込めて考えたところです。

○会長　じゃ、またあの自由にいきますので。ご発言されたい方お願いします。逆に事務局、市もだし4町おいでいただいているんで、ご意見でもいいし、4町から、あるいは市から皆さんにここが聞きたいとかこれどう思われますかという質問があったらありがたいと思います。倉吉市も、4つの町さんもぜひお願いします。大体僕皆さんの顔知ってるんで。あの、これ共生ビジョンって倉吉と町との結びつきの取り組みなので、そこはちょっと押さえておきたいと思います。

○オブザーバー　ちょっと先ほど最初の方にご意見があったんですけど、それに関連してと言うことでお話しさせていただけたらと思います。婚活事業の指標で0ということで、なかなか難しいと言うことで、広域連合の方で広域連携婚活事業と言うことで取り組んでいるんですけども、実績としてはそこを捉えると言うことでございます。ですけども、いろいろ事業やりまして、カップリングにつきましてはイベント事業2回やって7組、6組ということで、13組、昨年度で言いますとそういうものはございます。ただ、その後押しをしたところで、なかなか成婚までには至っていないということで、実績としてなかなかあがってこないと言うことで苦労しているところでございます。男子20名、女子20名であったりといったイベントをしていますし、結婚支援者の方のセミナーで会ったり男性女性のセミナーというのもやっております。また今年度になりますけども、もう少し拡大して県との連携をしながら男子50名、女子50名、100名の規模でのイベントと言うことも来週ですけど、そういうことも考えておりまして、何とか実績が出るようにと言うことで取り組んでおります。よろしくをお願いします。

○オブザーバー　特に細々見ていないのであれですけど、ちょっと気がついた点、一点だけ。50ページにウォーキングリゾート推進事業という名目でテーマがあがっております。担当課がどういうスタンスで書いたのかは分かりませんが、資源としては持っているつもりでございまして、他の観光の部分でいうとかなりうちは入るわけですけども、こういった新しい部分につきましてもぜひ関心を持って、野山もございまして、一緒になってやれたらなど。今ちょっと気づいた点でございまして、また持って帰って中でもちょっと話をしてみたいと思いますのでよろしくをお願いします。以上です。

○オブザーバー　ちょっとまだこのたたき台を全て把握しているわけではございませんけども、特に企画課、本町の企画課ですね、所管していることで申しますと、2点ほどございまして、まず一点、先ほどありましたけども公共交通の関係ですね。非常に今クローズアップされている現状がございまして、先日ですか、鳥取県の方でも県と市町村の行政懇談会の中で、平井知事の方もこの公共交通の関係、それと幼保の無償化の関係をですね、テーマがあったわけですけど、当時の公共交通の関係について、今鳥取県の方でもモデル地区であるとか、また研究会を立ち上げて検討しておられるということでございまして、先ほどありましたように今のバスの維持だけでもなかなか大変だという現状の中で、こういうコースを維持・確保していくにはどうしたらいいのかと言うことは、本町よりも課題になっております。ぜひそういったいい施策・方法があればまたそれは事業者さんだけでな

く、地域で取り組まれたりまたタクシーの関係であるとか、いろいろ手法があるわけですし、そういったことを本町の方でもこのビジョンを通してビジョンの中で研究していく必要があるのではないかとというのが一点であります。もう一点はケーブルテレビの関係でありまして、ケーブルテレビはよく話があるのはTCC、本町の方は湯梨浜町・北栄町・琴浦町さんの3町で回っていますが、倉吉さんや三朝町さんの、例えばもうすでにやっておられるかも知れませんが、議会の状況であるとか地域の状況であるとかといったことがですね、知りたい方もあるということをやっとよく耳にする機会があると思います。ぜひ会社が分かれているんですけども、そういった横の連携が十分にできて、そういった情報がTCCエリアでもNCCさんのそういった情報がよく分かるような形での取り組みや次期のビジョンでも提言というか、目標になればありがたいかなという風に思っております。これからちょっと考えていきたいと思っております。以上でございます。

○オブザーバー ちょっと私どもの部署で関係する部分については先ほどからちょこちょこお話が出ていますので、担当外にはなるのですが先ほど委員さんの中からも少しお話が出ていましたけれども、教育に関する部分がちょっと薄いのかなというふうな感じです。今総合戦略というものが各町で立てていっている状況だと思いますが、この共生ビジョンについても10年前のものを元にしていくと、やっぱり状況が大きく変わってきているのかなという風に思っております。教育の方は先ほどありました高校の定員割れの話は毎年聞く話ですし、特に琴浦町の場合は西部が近いもので、西の方に行かれる子どもさんが多いというのもよく聞きます。その点と、あと小中学校においてはICT教育の話が今ずっと出てきていまして、ICT、機械を入れるのは各市町ですのかもしれないですけど、それを使ってどうやって子どもたちに教育をしていくのか、といった部分については広い範囲で何か取り組んだりもできるのかなと。そういったことも今考えているところです。以上です。

○オブザーバー わたしもちっと先ほど委員さんの意見の中にあつた、高校の欠員の話に興味がありまして。うちの総合戦略の中に中学生に『将来北栄町に住みたいですか』というアンケートを採っております。それを目標値80%と設定したんですけど、実際アンケートを採ったら15%くらいしかない。そう思うが15%しかないということで、残念と言いますか。一方中学生では夢を持った子どもがいるのは当然かと思えます。高校の欠員の話も、要は将来に繋がるようなとか、高校自体に魅力があれば、やはり選んでもらえると思うんですけども。そこが東部や西部の方に行ってしまう現状はあるという部分で、その中部に来てもらうのは本当にいいのかという。例えば授業をするにしても指標を作るにしても、来てもらうことがいいことなのかということが、プランに入れるに当たってはちょっと考えておかないと、違う面もあるのかなと思っております。そこが気になったところであります。

○オブザーバー 失礼します、すみませんちょっと突然で特に考えていなかったんですけども、担当外になってしまってさっき福祉の関係で話があったんですけども、福祉とちょっと外れるかも知れませんが、共生社会というのが福祉の方で言われていて、話がずれてしまうかも知れませんが、移住・定住の方がこれだけ多いということで、コミュニティのあり方というのがちょっと変わってきているなと思っております。地域コミュニティと言うよりも、もっと多様な方がそれぞれ繋がっていくような、もっと広い繋がりというか、が必要じゃないかなと私は思っております。高齢者の見守りとか地域で取り組まれた方がいいということもあるんですけども、すいません話がまとまらないんですけども、もう少し広がりというか、居場所作りでもないですけどもちょっとそういったこ

との記述があればいいと思いました。感想です。

○会長 すいません、委員の方他に何か言っておきたいことがあれば、いかがでしょう。そうしますと今日ではとても足りないので、申し訳ないんですけど宿題を出すと言うことで、ちょっと説明をしてください。

○事務局 はい。本日限られた時間の中で要点の説明になっております。たたき台を読んでいただいてまたいろんな意見が出てこようかと思えます。その際には、お手元に意見提出シートというものをお配りしております。こちらに『何ページのこの箇所なんだけど、こういうことを書き込むべきじゃないか』とか、『ここをこうやった方がいいんじゃないか』とか、そういったことを記入していただいて、10月31日、今月いっぱいをめどにご提出をいただけたらと思います。あと、私から一言申し上げますと、春先に総務省が来たとき最初にお話ししました。総務省職員のヒアリングの時と合同勉強会の時と、2人来たんですが、2人の職員が口をそろえて言っていたのが『鳥取中部の取り組みは非常に地に足のついた素晴らしい取り組みである』ということでした。それはどういうことかといいますが、例えば病児病後児保育というのは、困っている人がそこにおいて、それを各市町単独でそれを解決するには費用がかかりすぎると。それを厚生病院であったり野島病院で解決していく。その費用を1市4町で負担していこうというような、そういう困っている人にちゃんと手が差し伸べられている事業を取り組まれていますね、ということの評価されました。ヒアリングの時は厚生病院の病児保育の現場もご覧になられて、素晴らしい取り組みですということを言っておりました。私がこのご意見をいただくときをお願いしたい視点とは、鳥取中部を一つの生活圏域として暮らしていて、生活者としてこういうことに困っているとか、こういうことがあったらいいのにと言うことをぜひ書き込んでいただきたいなと思います。それが計画にすぐに反映できるかどうかと言うのはまた議論させていただかないといけないんですけども、その声をしっかり拾って行って、1市4町の担当者でもって事業化していくというのがビジョンの目的になってきますので、この紙にぜひご記入いただけたらなという風に思っております。以上です。

○会長 続けて今後の策定スケジュールをちょっと説明してください。

○事務局 資料の7をご覧ください。今後のスケジュールに関して説明を申し上げます。10月3日、第1回ビジョン懇談会が本日になります。10月から11月の間に素案を作成をさせていただきます。本日いただいた宿題というものを、また担当課で持ち帰りまして、1市4町でいただいた意見について議論をした上で素案を作り直して、12月をめどに第2回ビジョン懇談会を開催させていただきたいと思えます。そのときには素案という形で示しができるかと思えます。先ほど申し上げた、本日いただいた意見を揉んだもの、また意見提出シートでいただきました意見を入れ込んだもの、というものを素案にして12月にお示しをいたします、1月、2月の間でパブリックコメントを実施しまして、そのパブリックコメントの意見を素案に盛り込んで最終案を作っていくという形になります。3月上旬に第3回ビジョン懇談会を開催いたしまして、このときには最終案という形で、ほぼ固まったものを皆さんにご確認いただいて、各市町の議会で協定書の変更とビジョンの報告という形で完了することになります。以上になります。

○会長 というようなことで、今日のご意見とそれからちょっと宿題として意見の提出が大きなポイントになりますので、ぜひいろんなご意見をお寄せいただければありがたいと思います。一応今日用意した内容はこんなことですが、よろしいでしょうか。ご質問ありますか。じゃ、閉めさせていただきます。

ますが最後に内川課長に一言もらって閉めましょうか。

○事務局 はい、ご意見いただきありがとうございます。先ほどですね、スケジュールの中で12月の第2回懇談会ということで予定を述べさせていただきました。この10月の末のご意見、あるいは本日のご意見、まとめるのも時間がかかる部分もあろうかと思えますけども、最初の会長挨拶にもございましたけども、今年度第3次ビジョンを作るということになりまして、3回のビジョン懇談会を予定しています。第2回のビジョン懇談会の日時を本日ちょっと調整できたらなど私の方で勝手に思っております、勝手ではございますが、うちの方もどの市町もそうですけども、12月は議会というものがございまして、誠に勝手ではございますがご提案で、例えばですけども12月19日（木）あたりのご日程を調整いただければなと思っております。

○会長 いかがでしょうか。12月19日、時間は今日と同じような。

○事務局 今日と同じ午後1時半からを予定しております。

○会長 よろしいですか。とりあえず12月19日（木）午後1時半からということにさせていただきます。ちょうど時間通りでございますので。どうもありがとうございました。

(以上)